田中作次

田中 作次
2012-13年度国際ロータリー会長

No.４１

Takasago Rotary Club 週報

高砂

クラブ会長方針

「ロータリーを楽しもう」

運営方針

①ロータリーファミリーで親睦の輪を広めよう
②ロータリアンの自覚とロータリークラブのイメージの向上
③長期展望でロータリークラブを考えよう
④６０周年記念事業を成功させよう

例　会　記　録（2013. 5. 24（金））　通算2,941回

◆開　会

◆唱　歌　ロータリーソング（我等の生業）

◆「四つのテスト」唱和

◆ゲスト紹介

２００２～０３年度ガバナー　安平和彦様

◆来訪ロータリアン　高砂青松ＲＣ　伊藤勝之会員

安平和彦様

◆歓迎の歌「松の緑」

◆プログラム予定

５月３１日（金）	６月７日（金）	６月１４日（金）	６月２０日（木）
クラブフォーラム 委員会引継ぎ	クラブフォーラム 事業報告	クラブフォーラム 事業報告	引き継ぎ家族例会 於：大黒天 （21日例会分）

◆出席報告

本　日　５月２４日　　会員数５０名　　出席者　　２４名　　出席率　７２.７０％
前々回　５月１０日　　会員数５０名　　修正出席者４２名　　出席率１００.００％

◆ＭＡＫＥ－ＵＰ

濱﨑日出夫会員　　高砂青松ＲＣ　　５月　８日（５／１８）
覚野　成広会員　　国際ﾛｰﾀﾘｰ2680地区大会　７月３０日（５／３１）
堀　　直樹会員　　国際ﾛｰﾀﾘｰ2680地区大会　３月　２日（５／１０）
堀　　直樹会員　　国際ﾛｰﾀﾘｰ2680地区大会　３月　３日（５／２４）
守光　　隆会員　　ｅ－ＣＬＵＢ　　５月２３日（５／１８）
中尾　康三会員　　ｅ－ＣＬＵＢ　　５月２４日（５／２４）
丸山　恵右会員　　ｅ－ＣＬＵＢ　　５月２４日（５／２３）
堤　　哲雄会員　　ｅ－ＣＬＵＢ　　５月２４日（５／２１）
後藤　純次会員　　国際ﾛｰﾀﾘｰ2680地区大会　５月１０日（３／２）
後藤　純次会員　　国際ﾛｰﾀﾘｰ2680地区大会　５月１７日（３／２）
川勝　厚志会員　　ｅ－ＣＬＵＢ　　５月１８日（５／２１）

◆Ｓ．Ａ．Ａ．（ニコニコ箱報告）

山名　克典会長……安平パストガバナーをお迎えして。本日の卓話宜しくお願いします。
坂井　智代幹事……安平パストガバナー様、本日はありがとうございます。ご講話楽しみにしています。
後藤　純次会員……結婚記念祝を頂きましてありがとうございます。
大村　泰司会員……安平様ようこそおこし下さいました。
早退２名

◆幹事報告（２,９４１回）

〇ガバナー事務所
・国際ロータリー日本事務局　事務所移転のご案内

※例会変更
・高砂青松ＲＣ　６月１９日(水) → ２３日(日) 創立記念家族例会
沼島「木村屋」・淡路島南部「人形座」
・姫　　路ＲＣ　６月２５日(火) ２０１２～１３年度最終例会１８：３０～
姫路商工会議所７階７０１ホール
・姫 路 南ＲＣ　６月２４日(月) １８：００～　最終ほろにが会　ホテル日航姫路
・明　　石ＲＣ　例会開始時刻変更　明石ＲＣ　６月より　１２：３０開会となります。

○心豊かな美しい東播磨推進会議「県民情報情報誌　ネットワーク１３３号」が届いております。

○日野照彦会員より「退会届」が提出されました。

○その他

・上郡ロータリークラブより創立５０周年記念式典祝電お礼状が届いております。

◆会長の時間

山名克典会長

５月１８日の春の家族移動例会は、親睦委員会の皆様にはお世話になりました。久しぶりにＡＮＡクラウンプラザ神戸へ行きましたが、楽しかったです。

次週より、クラブフォーラムが続きます。いよいよ次年度への引き継から、事業報告と続いて、本年度もゴール直近となりました。先日のクラブ協議会にて話題になりました「未来の夢計画」について、従来の単年度計画から、複数年の継続した事業計画を立案していく必要性を感じております。本年度、計画した事業は実現できませんでしたが、次年度以降、長期展望の下、挑戦してみる必要があります。

話はかわりますが、日野照彦会員の本年度末をもっての退会届けがでてきております。非常に残念で寂しく思います。日野会員は昭和４３年の入会で高砂ロータリークラブの「生字引き」的存在でした。又新入会員のインフォメーション等積極的に関与され、クラブを指導していただき感謝しております。又会員減少となりますが、今一度会員増強に努力したいと思います。

最後に、本日の卓話「職業奉仕について」でパストガバナーの安平和彦様に、わざわざ姫路よりおこしいただきありがとうございます。宜しく御願い致します。

◆本日のプログラム

卓話「職業奉仕について」

安平和彦様

「ロータリーの職業奉仕」

高砂ロータリークラブ卓話

2013年05月24日

安　平　和　彦

ロータリーの職業奉仕とは何か

・職業奉仕とは、愛情の世界の考え方をもって、打算の世界をコントロールしていこうという考え方である。これが職業奉仕の根本原理である。

・ロータリーでは、愛情の世界に生きる心、すなわち世のため人のための心をもって職業を営んでいると、その結果として、「信用」という保護膜に包まれて、長期的に安定した利潤を着々と獲得することができる強靭な体質の企業を作り上げることになる。

・この原理の総体をロータリーの職業奉仕と呼ぶのだ。

（2680地区　深川純一PG）

- 「ロータリー」とは、人類文化史が20世紀の 時代に刻印を打った　職業人の最も優れた倫理運動である。
- 私ふうに表現すれば、
  ただの倫理運動ではない
  →「職業人の経営哲学・経営の帝王学」
  因縁論を通じて、
  →「お金の儲け方を教えてくれる職業倫理運動」

  この中心思想が「The Ideal of Service」（奉仕の理想・奉仕の理念）という考え方である
- その実践例として
  ・四つのテスト（ハーバート・テイラー）
  ・奉仕こそわが務め（パーシー・ホジソン）

→日本の伝統的実業倫理の精神と考え方において共通

四つのテスト

ハーバート・テイラー

シカゴ・ロータリークラブ会員

1931年、倒産寸前のアルミ食器会社の再建を引き受けた

クラブ・アルミニウム社
（従業員250人）
→経済恐慌のあおりで破産状態
（40万ドルの借金）

当時のアルミ食器業界の現状は大変厳しかった

如何にすれば、再建が可能になるか

→6週間の沈思黙考

テイラー

- 「この状態を切り抜けるためには、全員が極めて倫理的な立場をとらねばならぬ、と私は考えた。正義こそ力の源だと私は知っていた。従業員が正しさに耳を傾け、それによって行動するよう管理運営ができれば万事うまく行くと思った。」
- 「私たちに必要なものは、社内中の誰もが頭の中に納め、そして対人関係での思考と言動に応用できるような座右銘であった」
- 「ある朝、私は社長室の椅子に寄りかかり、両手を頭の後ろに廻して一考した。ややあって、私は一枚のカードを取り出して、頭にひらめいた24語を書きとめたのである」

- **The Four-Way Test**
  Of the things we think, say or do
  1) Is it the TRUTH?
  2) Is it Fair to all concerned?
  3) Will it build GOODWILL and BETTER FRIENDSHIPS?
  4) Will it be BENEFICIAL to all concerned?

- **四つのテスト**
  言行はこれに照らしてから
  1, 真実か　どうか
  2, みんなに公平か
  3, 好意と友情を深めるか
  4, みんなのためになるか　どうか
  （文献委員会の翻訳）

- テイラーは、まず自分で実行し、
- 会社の四部門担当の重役に、それぞれの信条に反しないことを確認したうえで、全従業員に発表して実行段階に入った。
- まず、自社の全商品の宣伝広告文に、「最上級の表現と他社製品より優位する表現」を禁止（誇大広告・虚偽広告の禁止）
- 宣伝の内容としては、当該商品の特徴と長所短所を忠実に述べさせるようにした（真実の開示）
- クラブ・アルミニウム社の経営方針となった。

（参考）　**パーシー・ホジソン「奉仕こそわがつとめ」の「売れ残りのレインコート」の例**
（客は何を買ったのか・・・真実を買った）

- ちょうどその頃、印刷物を発注するための競争入札を行ったところ、ある業者が他の業者より格段に低い破格の金額で落札。
- ところがその業者は、その後に見積計算に500ドルの誤りを発見。業者は自己責任であるとして損失を覚悟をしたが、その事実をクラブ・アルミニウム社の重役に伝えた。
- これを受けて開かれたクラブ・アルミニウム社の役員会では意見が分かれた。会社の資金繰りも楽ではない状態にあった。
- 最初に発言した役員　「業者側に落ち度があり、われわれに落ち度がない以上、価格を増額してやる必要はないのではないか」
- もう一人の役員　「それはそうだが、それでは四つのテストの第2に違反することにならないか」
- 最初の役員　「そうだった。私の発言を取り消して、500ドルを増額することを提案します」

→満場一致で500ドルを増額した。

- このことが、まもなく社の内外に伝わり、取引先や消費者に高い評価を受け、従業員だけでなく、従業員の家族や関係業者等も希望を持って仕事に励んだ。
- そして、5年後には、再建に当たっての新たな6100ドルの借り入れも、前からの40万ドルの借金もすべて返済し、15年後には100万ドルの配当金を株主に対して支払うことができるようになった。
- ハーバート・テイラー
  1939年のシカゴ・クラブ会長
  1954年 RI会長就任
  「四つのテスト」の版権をRIに譲渡し、自らのターゲットに
  これを掲げて全世界のロータリアンに唱導した。
- 長ったらしく宗教性の強い「ロータリー道徳律」に代わって、もてはやされるようになった。

四つのテストの解釈（小堀憲助）

- 第1項は、言動そのものの内容に関する準則
- 第2～第4項は、その言動が述べられるべき状況に関する準則
- すなわち、
  ロータリアンの言動は必ず真実でなければならない。（第1項）
  しかし、真実の言動を実行するかどうかは、第2～第4項の準則を検討した上でなければならない。
- たとえば、醜女がいたとして、「あなたは醜女ですね」とは言わない。
  つまり、「心温まる人間関係」を育てないような言葉は仮に真実であっても口にするな、ということを命じている。

中核理念としての「The Ideal of Service」

- ロータリーの綱領（目的）に3カ所も出てくる

前文・・・「ロータリーの綱領は、有益な事業の基礎として奉仕の理想（理念）を鼓吹し、これを育成し、特に次の各項を鼓吹、育成することにある」（to encourage and foster the ideal of service）

第3・・・「ロータリアンすべてが、その個人生活、事業生活および社会生活に常に奉仕の理想を適用すること」（the application of the ideal of service）

第4・・・「奉仕の理想に結ばれた、事業と専門職務に携わる人の世界的親交によって、国際間の理解と親善と平和を推進すること」（united in the ideal of service）

- 「奉仕の理想」のロータリーソング（昭和10年）もある

それでは、理念としての「The ideal of Service」（奉仕の理想・奉仕の理念）とは、何か？

鍵は、奉仕の実践に関する決議23－34にあり

- 決議23－34
  個人奉仕としての職業奉仕理念と
  団体奉仕としての社会奉仕理念の衝突を
  解決し、ロータリー分裂の危機を回避した
- 奉仕理念の集大成

決議23-34　第1条

- ロータリーは、基本的には、ひとつの人生哲学であり、それは利己的な欲求と義務およびこれに伴う他人のために奉仕したいという感情との間に常に存在する矛盾を和らげようとするものである。
  この哲学は、一「超我の奉仕」の哲学であり、これは「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という実践的な倫理原則に基づくものである。

Fundamentally, Rotary is a philosophy of life that undertakes to reconcile the ever present conflict between the desire to profit for one's self and the duty and consequent impulse to serve others. This philosophy is the philosophy of service – "Service Above Self" –and is based on the practical ethical principle that "He profits most Who serves best"

決議23-34　第1条

ロータリーはひとつの人生哲学

(Fundamentally, Rotary is a philosophy of life)

利己的な欲求 (The desire to profit for one's self) ⇔ 他人への奉仕感情 (the duty and consequent impulse to serve others)

相反する二つの心の葛藤を調和

(Undertakes to reconcile the ever present conflict)

「利己と利他の調和」の哲学

「利己と利他の調和」の哲学

すなわち、この利己と利他の調和の哲学が、

「The philosophy of Rotary」 であり、

「The Ideal of Service」（奉仕の理想・奉仕の理念）

に外ならない。

この哲学は

「Service Above Self」 の哲学であり、

「 He profits most Who serves best 」の実践倫理原則に基づく

- Service Above Self
  自分のことより先に他人のために尽くすことは、やがて巡りめぐって自分の人生を照らし、明るくするということ
- He profits most Who serves best
  利己と利他の調和の原則、すなわち奉仕の理想の哲学を自己の職業に適用し、他人のために倫理に適った職業を営むこと、このようにして自己と自己の企業の倫理性を高めていくことが、自らと自らの企業の信用を高めていき、結果的に、自己の企業の安定的且つ永続的な利潤を確保していくことにつながるのだ、ということ

→すぐれて因縁・因果論の世界

因縁・因果論と東洋哲理

- 易経「積善之家必有余慶　積不善之家必有余殃」
  （類似　善因善果　悪因悪果）
- 伝教大師最澄「道心の中に衣食あり」
  （1940　神戸RC　岡崎忠雄PG）
- 日蓮上人「人に物を施せば、我が身の助けとなる。たとえば、人のために火を灯せば我が前明らかになるが如し」（食物三徳御書）
- 道元禅師「愚人思わくは、利他を先にすれば、みずからが利はぶかれぬべしと。しかにはあらざるなり。利行は一法なり。あまねく自他を利するなり。」（自利利他一行）

日本の伝統的実業倫理

・因縁論は日本の伝統的実業倫理の世界にも普遍的

- 鈴木正三　万民徳用
- 石田梅岩　石門心学
- 二宮尊徳　報徳教
- 近江商人　「三方良し」の商人道
- その他、
  渋沢栄一らの勤勉の哲学

鈴木正三（1579－1655）　万民徳用

・「士農工商」を分業ととらえ、現実の家業に精励する中に仏教の本質があり、且つ仏教が実現されるとする、仏教の職業倫理を述べたものであり、優れて近代性をもつ経済倫理。

・売買をせん人は、まず得利の増すべき心づかいを修業すべし。その心づかいと言うは他のことにあらず。身命を天道になげうって、一筋に正直の道を学ぶべし。正直の人には、諸天の恵み深く、仏陀・神明の加護有りて、災難を除き、自然に福を増し、衆人愛嬌浅からずして、万事心に叶うべし。

→商業利潤の正当性を評価

→日本人の労働観・職業観の先がけとなり、やがて日本的資本主義の精神的な源泉になっていった。

（比較「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」）

石田梅岩（1685－1744）　石門心学

・商人が売買によって獲得する利潤は、武士が主君から受ける俸禄に相当する貴重なものである。

・実の商人は、先も立ち、我も立つことを思うなり。

・商人道の本質は、勤勉・誠実・正直の精神に立ち戻ること
「仁」（相手を思いやる心），
「義」（人としての正しい心）
「礼」（相手を敬う心）
「智」（智恵を商品に生かす心）
の四つの心を備えれば、客の「信」（信用）となって、ますます商売は繁盛する。

・ありべかかり（なになにらしく）の心・・・商人は商人らしく、ただひたむきに仕事に励むことが人格形成につながる。

→倹約の奨励・富の蓄積の擁護

二宮尊徳（1787－1856）　「報徳」の教え

・道徳経済一元論（道徳と経済の融和・両立）
経済を忘れた道徳は寝言である。道徳を忘れた経済は罪悪である。私利私欲に走るのではなく社会に貢献すれば、いずれ自らに還元される。

・報徳仕法
至誠・勤労・分度・推譲の実践によって初めて人は物質的にも精神的にも豊かに暮らすことができる。

二宮翁夜話

・箱根湯本の温泉場での弟子たちに説いた湯舟の話
奪うに益なく、譲るに益あり。譲るに益あり、奪うに益なし。これすなわち「天理」である。

・天地の道・親子の道・夫婦の道・農業の道の四つの法則
商法は、売って悦び買って悦ぶようにすべし。
売って悦び買って悦ばざるは、道にあらず。
買って悦び売って悦ばざるも道にあらず。
貸借の道もまた同じ

・商法の本質を説いた

・「ロータリー以前の大ロータリアン」（土屋元作）

近江商人　「三方よし」の商人道
→「売り手よし」「買い手よし」「世間よし」

・中村治兵衛（宗岸）が1754年に15歳の養嗣子に認めた書置（家訓）が原典と言われる。

・商いの基本は、「売り手よし」「買い手よし」の、売り手・買い手双方の満足ということのほかに、「世間よし」として、その取引が世間に認められ、社会全体の幸福につながる倫理に適った商いをすること、すなわち「三方よし」が商売の秘訣である。

・このことが、行商先の顧客の間に「信用」という目に見えない財産を築いていき、家業を未来永劫に存続させていくのだ。

日本の伝統的実業倫理の思想的特徴

・企業が、本業から得た利益をもって社会のためになることをしよう（たとえば、フィランソロピー、ロータリーで言う社会奉仕）ということではなく、事業活動（ビジネス）そのものの中核に社会をよりよくすることを組み込んでゆこうとするもの。

・彼らの商人道は、現代の企業におけるCSR（企業の社会的責任 Corporate Social Responsibility）に通じる。

・彼らは、優れて因縁論の世界を説き、目先の利益に目がくらんで破滅に至ることの愚かさを説いた。

まさにロータリーの職業奉仕の理念と共通

ロータリーの職業奉仕の理念と日本の伝統的実業倫理

- ロータリーは、1905年に日本の伝統的実業倫理とは何の関係もなく生まれた
- 両者の間には何の脈絡もない
- しかしながら発想は大変に似通っている
- このことが日本におけるロータリー運動の受容と発展に寄与した

ロータリーの職業奉仕論の特徴

- ロータリーの職業奉仕論は、利己と利他の調和の哲学（＝奉仕の理想・理念）

「Service Above self」

「He profits most Who serves best」

- Service Above Self

自分のことより先に他人のために尽くすことは、やがて巡りめぐって自分の人生を照らし、明るくするということ

- He profits most Who serves best

利己と利他の調和の原則、すなわち奉仕の理想の哲学を自己の職業に適用し、他人のために倫理に適った職業を営むこと、このようにして自己と自己の企業の倫理性を高めていくことが、自らと自らの企業の信用を高めていき、結果的に、自己の企業の安定的且つ永続的な利潤を確保していくことにつながるのだ、ということ

- ロータリーの職業奉仕論は「商売の極意論」

「満足」という商品と「感謝」という対価

「真実」という商品と「信用」という対価

終わりに

・縁あってロータリーの世界に入った
一生もんのロータリー
昼飯会（晩飯会）ではさびしい
感性的親睦でもさびしい
知ることの楽しさ　自ら学ぶことの楽しさ

・そして、なによりも「ロータリー哲学」（利己と利他の調和の哲学）を実践することは、必ずや他人を助け、やがては巡りめぐって自らの人生を明るく照らし、いずれは自己の職業を隆々と栄えさせるのだという確信と、ロータリアンとしての誇りを持って、お互いにロータリー人生を楽しみましょう。

- ご静聴ありがとうございました